

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
発達と老化の理解Ⅱ Development and Aging Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(介護福祉士養成課程 必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
こころとからだのしくみ 認知症の理解 障害の理解				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
介護福祉士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
石川 幸子	福祉棟2階	月・火・木・金（授業時間以外）		授業中に指示します
授業の概要				
高齢期について、高齢者の加齢に伴う心身の状況の変化と日常生活に及ぼす影響についての基礎的な知識の習得を図る。				
授業の目標				
①高齢者の疾病と多い病気について知識を習得できるようにする。 ②死について考える知識を習得できるようにする。 ③保健医療との連携について知識を習得できるようにする。 ④高齢者の生活課題について知識を習得できるようにする。				
授業の方法				
講義、演習、模擬授業、ディスカッションなどを取り入れる。				
学習の成果（学習成果）				
①高齢者の疾病と多い疾患についてまとめることができ、積極的に課題に取り組むことができる。 ②加齢に伴う心身状況の変化などについて基本的事柄について説明できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	発達と老化Ⅱについて学習内容を確認し、学ぶ意義を理解する。ガイダンス・概要説明。			
第2回目	高齢者と健康① 健康長寿に向けての健康			
第3回目	高齢者と健康② 健康長寿、サクセスフルエイジング、アクティブエイジングなど			
第4回目	高齢者の症状・疾患の特徴、老年症候群 【グループワーク】便秘と下痢を繰り返す高齢者への生活の工夫			
第5回目	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点① 脳・神経系（パーキンソン病、脳血管疾患など） 【レポート】「脳血管疾患の予兆と予兆発見時の対応」提出7回目冒頭			
第6回目	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点② 骨格系・筋系（骨粗鬆症、変形性関節症、脊椎圧迫骨折など）			

第7回目	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点③ 皮膚・感覚器系（白内障、緑内障、難聴、皮膚疾患など）	
第8回目	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点④ 循環器系（高血圧症、虚血性心疾患、不整脈など）	
第9回目	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑤ 呼吸器系（肺炎、結核、ぜんそくなど） 消化器系（消化性潰瘍、逆流性食道炎、肝硬変など）	
第10回目	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑥ 腎・泌尿器系（慢性腎不全、尿路感染症、前立腺疾患など）	
第11回目	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑦ 内分泌系・代謝系（糖尿病、脂質異常症、痛風など）	
第12回目	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑧ 歯・口腔疾患（虫歯、歯周病、ドライマウスなど）、悪性新生物	
第13回目	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑨ 精神疾患（うつ病、統合失調症など）	
第14回目	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点⑩ 感染症（ウイルス性呼吸器感染症、感染性胃腸炎など） その他（熱中症、脱水）	
第15回目	保健医療職との連携	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問に行くこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	教材を常に準備して臨んでいる。ディスカッションの場面では、積極的に意見を述べている。授業に集中し、ノートをきちんととっている。不明な点があれば積極的に質問している。
レポート	20%	出題者の意図に合致したものとなっている。詳細はガイダンス等で説明する
調査報告書		
小テスト		
試験	50%	授業で学んだ内容を中心に理解できたかどうかを確認する。詳細はガイダンス等で説明する
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
教科書：介護福祉士養成講座 第12巻 「発達と老化の理解」 中央法規出版		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：介護福祉士、職歴：通算13年） 目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと。遅刻厳禁。飲み物等持ち込み禁止。		